

A collage of three photographs of men in work environments. Top left: A man in a white shirt and cap. Top right: A man in a blue polo shirt. Bottom: A man in a blue work jacket over a white shirt and tie.

攻めと守りの投資で、新たな企業価値を

時間がない、設備投資も厳しい中、小規模の投資でもできることがあります。

非連続な変化が起こり続ける不安な時代。

しかし、準備をしておけば、新たなチャンスにもなり得ます。

少しずつ環境と調和し、組織を変化に強くし、未来へ向けた一歩をはじめませんか？

1.国内ビジネス環境の変化

2.IT投資の考え方

- ・ dynabook × あなたの会社で実現する未来
- ・ 3つの変革
 - ・ 効率化&事業創造
 - ・ デジタル化によって起こる変化
 - ・ 新たな働き方の模索
 - ・ 技術継承&情報伝達

3.Office導入について（クラウドへのシフト）

- ・ Microsoft 365 リモートワークスタータープランのご紹介

4.Windows 11のご紹介

- ・ Windows 11の強化点
- ・ Job Canvasのご紹介
- ・ dynaEdge DE200/AR100 のご紹介

5.さらなる発展への一歩

- ・ 導入までのステップ
- ・ dynabookとともに
- ・ （参考）クラウド環境とオンプレミス環境との違い

他社商標について



世の中は今、変革にスピードを求めている

第4次産業革命と言われたITの進展により、さまざまな経済活動がビッグデータ化され、インターネットを通じて分析・活用されるようになったことで国内ビジネスの環境が大きく変化しています。

また、異業種連携が進む中でビジネス環境も様変わりし、これまでは各産業分野において成立していたビジネスモデルが崩れ、新たなビジネスモデル構築の必要性が増してきています。

イノベーション競争が激化・加速化することが予想される中、国内経済成長の崩壊も懸念され、競争激化に対応しなければならない次期パラダイムに向けて、付加価値リセットのフェーズに入っています。



低成長/不透明
異業種競争



新たなビジネスモデル
商流開拓



働く場所を選ばない
新たなコミュニケーション



セキュリティリスクの最小化

少子化に伴う人員の不足、中核を担う人材の定年問題、さらにはリモートワークの拡大など、企業を取り巻く経営環境は急速に変化し、その対応が迫られています。

ますます競争が激化する業界において存続していくには、これまで培われてきたデータ情報を最大限に活用できるITという武器への投資によって、企業価値を高めていかなければなりません。

御社にビジネス変革をもたらす「未来への投資」として「攻めの投資」と「守りの投資」が必要不可欠となってきました。

攻めの投資

データの可視化や効率化によって業務の質を向上させ、市場のニーズを読み取りながら企業の発展に取り組みます。より高度でスピード感を求められるビジネスにおいて、積極的に自社の強みを打ち出していくために御社にもできることがあるはずです。

- 商品・サービスの革新・高度化
- 新市場を目指した変革
- 効率的な新規顧客獲得
- 手厚い顧客対応

守りの投資

企業を変化に強いものにし、素早い意思決定や業務の透明化により、コントロールしやすく発展が望める企業への変革に取り組みます。日々の業務のムダをなくし、新たな働き方を創るための方法を模索することが、これからの企業の存続の鍵を握ります。

- 業務処理の省力化
- 変化に対応する業務フロー変革



dynabook × あなたの会社で実現する未来



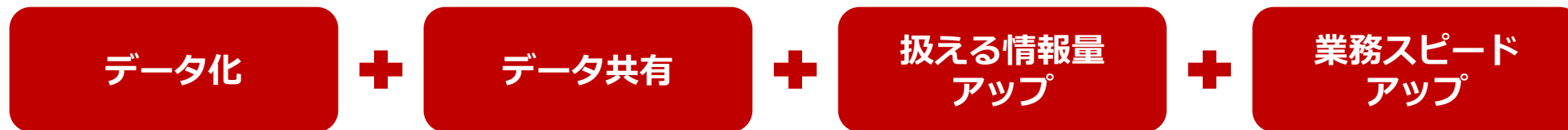
まずはお気軽にお問い合わせください

URL : <https://dynabook.com/>
Mail : DBI-LARinfo@dynabook.com





スピードに対応するための 効率化 & 事業創造



デジタル化されると、扱う情報量が増えることで、今までより気づきが増えます。
そのため、アナログでは気づかなかったことを発見し、できなかったことができる可能性が広がります。

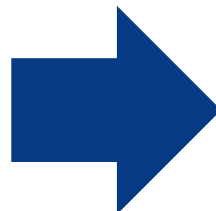
**大切なことは、「デジタル化」は手段であり目的ではないことを頭に置き
実現したい目標を意識することです。**

デジタル化された社内を想像してみましょう

見積書や請求書、稟議書、会議資料など従来のアナログによる業務のやり方では、管理に時間がかかる上に、煩雑になりやすく管理ミスも発生します。こうした情報をデジタル化することで、働き方改革や生産性向上につなげることができます。

アナログ

- 印刷物や請求書などを紙で保管
- 打ち合わせ内容は手帳に記載
- 社内であれば情報が閲覧できない
- 電卓で計算 .etc



デジタル

- PDFやWord、Excel等のデータとしてPCに保存
- 打ち合わせ内容も録音し音声データとして保存
- データ化されたものは場所を問わず閲覧可能
- Excelでたくさんのデータを計算可能 .etc

御社が目指す目標と課題およびギャップの整理をして、システムを検討していきます

1. 残すものと新しくするものを整理する（アナログの情報とデジタル化できるものを分ける）
2. 今までのシステムと同じことをするのではなく、できるだけシンプルに、必要最低限の機能を考える
3. 予算とランニングコストを考える

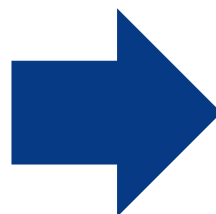


社会の激変による 新たな働き方の模索

社内がデジタル化されることで、働き方に変化が生まれます。
たとえば、外出先でも打ち合わせ資料に変更が生じた場合は事務所に戻る必要がありましたが、デジタル化することで、場所や時間を問わず情報にアクセスできるので業務効率が向上します。

アナログ (クラウド導入前)

出先への打ち合わせ資料は、紙（書類）で持参。
急きょ、変更が生じた場合は事務所に帰り、修正、確認、印刷そして訪問などで対応！？



デジタル (クラウド導入後)

外出先でもクラウド上に保存している情報にアクセスし、データを閲覧・編集できるようになり業務効率がアップ。直行直帰も可能。



2 3つの変革 – 技術継承 & 情報伝達



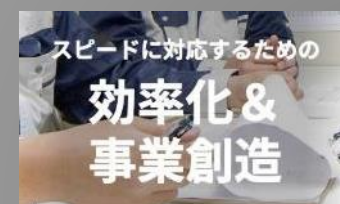
価値を維持し高めるための 技術継承 & 情報伝達

こんなお悩みはありませんか？

- コロナ禍でトラブルが起きている現場に行くことができない
- 現場での保守作業が必要だが、対応する人員が足りない
- 現場への移動コストを抑えたい
- 熟練作業員の技術をどのように継承したら良いか悩んでいる
- 両手で作業しながら作業の確認や本部の指示を受ける方法はないだろうか
- 紙マニュアルや図面が現場でかさばり邪魔になる

当社は、新しい働き方の一環として、製造・メンテナンス・建設・物流・医療などの現場におけるデジタルトランスフォーメーション（現場DX）を推進しています。

3 Office導入について（クラウドへのシフト）



Officeを導入するにあたり、大きく2種類のお客様に分かれます。

オンプレミス環境のお客様 = 更新が適用できない制限された環境やクラウド環境が整っていない

Office 2021（PCプレインストール版）

Office LTSC 2021（Software in CSP）

※オープンライセンス終了によりCSPプログラムでの提供

永続ライセンス版

- デバイスごとに1度だけ購入
- ユーザーのデバイスに直接ダウンロード
- セキュリティと安定性の定期的な更新

クラウド導入実施可能なお客様 = 企業全体の生産性とセキュリティを高め、TCOの削減を実現

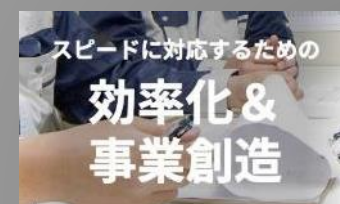
Microsoft 365（CSPプログラム）



クラウド

- サブスクリプションベース、ユーザーごとのライセンス
- デスクトップとクラウドアプリ、クラウドストレージ
- 最新バージョンを常に利用可能
- ハイブリッドワーク対応

3 Microsoft 365 リモートワークスタータープランのご紹介



月額399円_(税込) から始めるリモートワーク

リモートワークスタータープランなら、Microsoft Teams  とOneDrive  で
すぐに情報共有やWeb会議を始められます。

1

低コストで手間をかけずに
柔軟な働き方が可能

2

安心・安全に
ウェブ会議が開始可能

3

最新のOffice搭載PCに
本プランを追加するだけで
リモートでの共同作業が可能

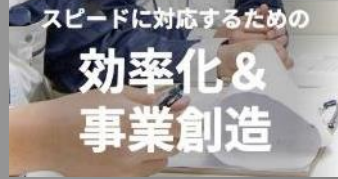


1. チャット・Web会議・ファイル共有がTeamsだけで使用可能
2. Teams上でOfficeのアプリが開け、OneDriveで保存すると共同編集も可能
3. Webやスマホのアプリからも使用可能なため、場所にとらわれず仕事ができる



1. 社内サーバーの資料を確認するために出社していた場合、OneDriveを導入することでリモートワークが可能
2. Officeアプリの共同編集が可能となり、共同作業者と効率よく作業ができる
3. Officeの自動保存機能が加わることで、データ保存し忘れを防ぐことができる

3 Microsoft 365 リモートワークスタータープランのご紹介



必要な構成でプランを選択できます。御社のご利用環境に合わせたプランをご紹介します。

2020年8月 日本独自プランとして提供開始

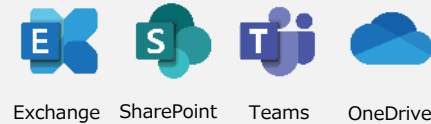
Remote Work Starter Plan

クラウドサービス



Microsoft 365 Business Basic

クラウドサービス



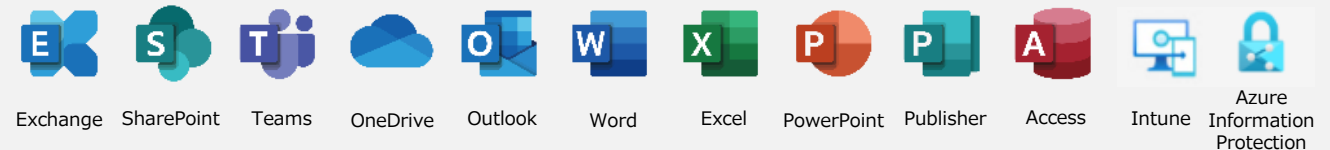
Microsoft 365 Business Standard

クラウドサービス、デスクトップアプリ



Microsoft 365 Business Premium

クラウドサービス、デスクトップアプリ、セキュリティ

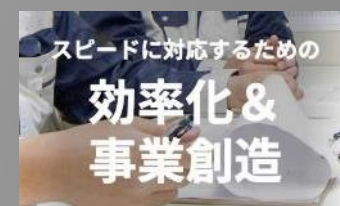


Microsoft 365 Apps for business

デスクトップアプリ



4 Windows 11のご紹介



ビジネスを加速させる dynabook×Windows 11

オフィスワーク × リモートワーク
ハイブリッドな働き方のためにデザインされたWindows 11



Note PCスタイル



Monitorスタイル



Penスタイル



Flatスタイル

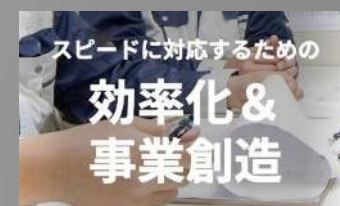


Tabletスタイル

最新のdynabookならWindows 11へのアップグレードも実施可能※
ニューノーマル時代のビジネスを新しいWindowsとdynabookで加速させましょう。

※Windows 11へのアップグレードは2021年下旬～2022年に対象となるデバイスに提供される予定です。
時期はデバイスによって異なります。機能によっては特定のハードウェアが必要です(aka.ms/windows11-spec 参照)。

4 Windows 11での強化点



企業のビジネス課題に対応したOS



Windows 11は、ハイブリッドワークのために設計されました。
これは、中小企業のお客様が直面する新たな課題に対応するためのものです。
生産性が高く、安全なバージョンのWindowsであると同時に、IT部門にとってもシンプルなものになっています。



Microsoft Teamsとの統合が深まったことで、タスクバーから直接、共有、ミュート、ミュート解除ができるようになり、より効果的なオンライン会議が可能になりました。

小規模企業の24%、中規模企業の40%が、最新のコラボレーションソフトウェアと最新のハードウェアの導入は難しいと考えている

容易な導入

69%※の中小企業が、最新のPCはより優れたセキュリティコントロールとデータ保護を提供できると認識している

さらに理解を

中小企業の57%が、長期的に従業員のリモートワークの選択肢を増やすことを維持する可能性が高いと回答

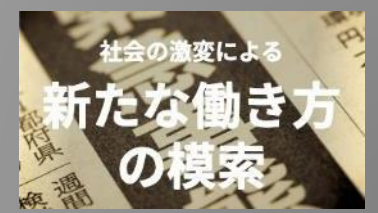
働き方改革

71%のIT管理者は、最新のデバイスが従業員の生産性を向上させると回答し、69%は新しいPCがリモートワークに不可欠と認識している

IT管理改善

※Microsoft社調べ

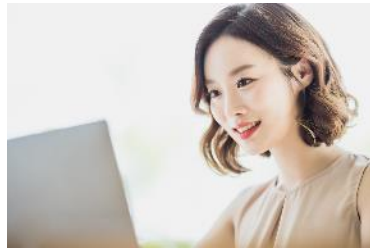
4 Job Canvasのご紹介



リモートワーク／モバイルワークが広がる中で、チーム全体での働き方にお悩みではないでしょうか。

- ・在宅勤務で、メンバーがどのように業務を行っているのか不安がある
- ・各人がどう動いているのか確認して、お互いに連携し、助け合いたい
- ・リモートワーク中の各メンバーの端末稼働状況を客観的に確認したい

Job Canvasを導入することで、メンバーが業務で利用しているPC端末、スマートフォンの稼働状況を自動で収集し、仕事の様子の「見える化」を実現。効率の良い働き方をサポートしチームの生産性を向上します。



PCから、稼働状況・アプリ利用状況をクラウドサービスに収集

➡ Job Canvas



Aさんはずっと文書作成しているみたいだ。ヘルプしてあげないと…

収集した稼働情報をWebブラウザで可視化



在宅勤務メンバーは働きすぎになってないかな？

4 dynaEdge DE200/AR100のご紹介



現場とオフィスをシームレスにつなぎ、ハイブリッドワークを実現 熟練者から新人への技術継承を支援



モバイルエッジ
コンピューティングデバイス

 **dynaEdge**
DE200



インテリジェントビューア
AR100



ハンズフリーで撮影画面や共有画面を確認しながら作業ができます。

Microsoft Teams、Zoom、Webex等の会議アプリケーションが動作します。※

Vision DE Suiteを使うとより簡単にMicrosoft Teamsを操作できます。

OSがWindows 10ベースなのでさまざまなWindowsアプリケーションが動作します。

※全てのアプリケーションの動作を保証するものではありません。

導入に向けて社内を動かしていくことができるのは、社員の方だけです。

アナログからデジタルに置き換わることで、操作や管理を簡単にする、これはITが得意です。

外部環境の変化が激しい時代に、社内のリソースを見直すことも大切になってきます。

人の配置や、お金のかけかたも変わってきます。

リソースの最適化を行うことで無駄を減らすことができます。

リソースを見直すとオペレーションも変化し、時代に沿った形で各業務の安定性と安全性も高まります。

人もシステムも組織も柔軟な変化が求められる時代となり、新たな働き方が作られていきます。

「自社はまだいい」と思っていると、気づいた時には世の中の当たり前になっており、

従来の仕組みが利用できなくなることもあります。

手遅れになり、慌てて見直すことがないように、小さく少しずつ手を打っていくと負担も少なく済みます。

これからのシステムは、ビジネス環境やテクノロジーの進化に対応することが求められます。

1

お試しを使ってみる

2

「止められる」選択肢も用意しながら
一年間の利用を検討する

3

変化に違和感が少なく、効果を感じやすいものから、小さく始める
効果を感じやすいものとは「便利だな」と思えるものです
例としては、伝言メモやメールを操作が簡単なチャットにする等

4

効果を社内で共有して、自社に合っているか確認する

**無料お試し利用から始め、
効果がなければ止められる。
Dynabookに相談して
まず第一歩を踏み出してください。**

御社のさらなる発展への一步を、日本の製造業として30年以上PCを作ってきた

Dynabookとともに

現在の業務のどこに問題があるのか、企業を変えていくためにはどうしたらいいのか。その糸口を探せずに悩んでいるご担当者様は意外と多いもの。

Dynabookは世界初※のノートPCを開発し、ビジネスの効率化を考え続けてきた専門家として、お客様ごとに異なる問題、予算、環境に合わせ、最適解をご提供してまいります。

※A4サイズのノートPC「Dynabook J 3100 SS001」を1989年に発売。

業務の効率化による 売上拡大やコスト削減

これまでの営業情報をデジタル化

個人が保管、蓄積してきた情報を統合・分析し、共有。
可視化されたデータをもとに、戦略的な営業活動を実現

快適な職場環境の提供による 新しい価値創造

オンライン商談やモバイル端末の導入

新たな接点の獲得でコミュニケーションを効率化、快適
な仕事環境による時間短縮が生産性やサービスを向上

持続的な発展を続ける 企業体制の獲得

組織間での情報共有による連携強化

情報をデジタル化し、クラウドサービスにより組織を超えた情報共有を容易に。属人化していた技術・情報の継承をより効率的に

社内でITシステムを構築したり運用したりする方法には、クラウド環境もしくはオンプレミス環境の選択肢があります。クラウド環境はサーバーをインターネット上の仮想空間で保有し、システム構築もインターネット上の仮想空間で行います。一方、オンプレミス環境は自社内にサーバーを設置し、システムを自社で構築する仕組みです。

	クラウド環境	オンプレミス環境
イニシャルコスト	◆初期費用は無料が一般的 ◆低コストでスタートが可能	◆サーバーやネットワーク機器などの購入費が高額 ◆ソフトウェアの購入費やライセンス取得費が必要
ランニングコスト	◆従量課金制なので使用分のみ請求	◆ソフトウェア システムの利用自体にコストは不要 ◆人件費やサーバーの電気代などが必要
インフラ調達	◆アカウント登録後すぐに利用可 ◆Web 上でサーバーの増減やスペック変更などが可能	◆機器調達などに数週間から数ヶ月必要
カスタマイズ性	◆Google Cloud Platform などカスタマイズ可能	◆自社で構築するため、自社の要望に合わせて自由にカスタマイズが可能
冗長性	◆複数の仮想マシンを稼働させることが可能	◆複数のサーバーを購入することが難しいので冗長性は低い
セキュリティ	◆データの種類によってクラウドを使い分けすることでセキュリティを高めることが可能	◆自社内でネットワーク環境を閉鎖できるためセキュリティは高度
障害/災害リスク	◆クラウド事業者が復旧作業を行うためユーザーはインターネット経由で復旧を確認	◆自社で復旧を行うため、常にシステムに精通した従業員が必要

- Accessアイコン、Excelアイコン、Exchangeアイコン、Intuneアイコン、Microsoft、Microsoft 365、Microsoft Teams、Microsoft Teamsアイコン、OneDrive、OneDriveアイコン、OneNoteアイコン、Outlookアイコン、PowerPointアイコン、Publisherアイコン、SharePointアイコン、Teams、Windows、Wordアイコン は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Webex は、米国 Cisco Systems, Inc. の登録商標です。
- Google は、Google LLC の商標または登録商標である。
- Zoom は、Zoom Video Communications, Inc. の商標または登録商標です。
- その他の本冊子に記載されている社名・商品名・サービス名などは、それぞれ各社が商標として使用している場合があります。

※画面はハメコミ合成です。

※画面は実際のイメージとは異なる場合があります。Microsoft Storeアプリは別売です。ご利用になれるアプリは国/地域によって異なる場合があります。



まずはお気軽にお問い合わせください

URL : <https://dynabook.com/>

Mail : DBI-LARinfo@dynabook.com

